

【FD 報告】

修士論文指導への ICT の活用

横井 隆志

はじめに

2010 年度より租税法修士論文指導がスタートして以来、今日に至るまでに数十名の修了生を輩出し、2015 年 1 月現在、国税庁に申請された全ての修士論文が研究認定を受けている。LEC 会計大学院では、マイルストーンによる管理の下、税法の専門家と論文構成の専門家、文章作成の専門家が複数のチームを組んで指導にあたる集団指導体制により、現職をもつ社会人がキャリアを中断することなく質の高い論文を執筆することを可能にしている。より効率的・効果的な指導を実現するため、毎期、研究指導委員会によって指導体制や指導方法の振り返りとブラッシュアップが行われてきた^{注1)}。

筆者は、本会計大学院の IT 領域を担当する教員として、教員間、教員-学生間の情報共有や連絡をより確実に、かつ効率的に行うため、クラウドストレージやクラウド型グループウェアの導入を積極的に行い、またその方法についても試行錯誤を繰り返してきた。本稿では、その一端を披露したい。

メーリングリストからクラウド型グループウェアへ

2010 年度の税法修士論文開始当初、コミュニケーションのツールとして用いられていた

のは Google Apps によって提供されるグループ (メーリングリスト) であった^{注2)}。研究指導委員会の教員のグループに加え、マイルストーンの段階ごとに、教員と学生を含むグループを作成し、連絡事項の伝達や情報共有を行っていた。学生からのファイルの提出とそれに対するフィードバックのやりとりもメールベースで行われていたため、教員が扱うメールの量は膨大なものになり、その中から一人の学生に対する指導の履歴を確認するだけでも大変な労力を要していた。

そこで、2012 年度より導入したのがクラウド型グループウェアのサイボウズ live (<https://cybozulive.com>) であった。サイボウズ live は、連絡や情報共有に活用できる掲示板、教材の配布等に活用できる共有フォルダ、イベント、ToDo リストを備えている。掲示板はトピックごとに緊急性があるかそうでないかによって通知のタイミングを設定することができる。

研究指導委員会では、学生を段階別、クラス別のグループに登録し、グループ内に学生一人一人の掲示板を設置した。毎週、学生は作業を進めた論文ファイルをコメントと併せて各自の掲示板にアップし、教員も添削したファイルとコメントを掲示板にフィードバックする、というように、やりとりを個人の掲示板に集約することにより、一覧性をもって進捗と指導の履歴を確認することが可能にな

り、メールでのやりとりと比較して大幅な効率化に繋がった。また、グループ内では学生同士もそれぞれの掲示板を閲覧することができるため、順調に論文を書き進める学生が他

の学生の良い刺激となったり、学生同士で自発的な議論が生じたりするなどの効果も見られた。



図-1 クラス別掲示板



図-2 個人別掲示板のやりとり

この取り組みはサイボウズ live の導入事例^{注 3)}として紹介され、広く注目を集めるに至った。

クラウドストレージの導入

一方で、租税法修士論文を執筆する学生数が増大するにつれ、複数の学生が類似するテーマや領域で執筆するケースが生じると、学生が相互に執筆中のファイルを開覧できる状況が望ましくないケースも想定されるようになった。そこで、ファイルのやりとりをサイボウズ live とは切り離し、クラウドストレージの Dropbox (<https://www.dropbox.com>) を経由して行うこととした。事務局のアカウント内にクラス別のフォルダを作成し、さらにその中に学生個人別のフォルダを作成して、一人一人の学生と共有を行った。Dropbox からは Windows, Mac, スマートフォンやタブレット向けのクライアントソフトウェアが提供されており、指定したフォルダにファイルを保存したり変更したりすると、自動的に共有先にもその変更が反映される。そのため、学生は事務局と共有した Dropbox のフォルダに作業中の論文ファイルを保存しておけば、常に最新のファイルが事務局と共有された状態になる。また、一定期間、ファイルの変更履歴（変更を保存した時点でのファイルの履歴）が保存されるため、必要に応じて過去のファイルを復元することもでき、バックアップとしても有用であった。

一方で、研究指導委員会の全教員とフォルダの共有を行うことは事実上、不可能であったことなどから、教員への転送は毎週、期日を迎えた段階でファイルを一括で圧縮し、メールにより転送する必要が生じた。このとき、希に文字コードの問題から文字化けが生じるなどの問題が生じたことから、クラウドスト

レージによるファイルのやりとりは定着せず、他の方法を模索せざるを得ない状況となった。

メールとサイボウズ live への集約

上述した様々な課題をクリアするため、様々なツールのメリットを再検討し、現在、メールとサイボウズ live に集約した方法に落ち着いている。

サイボウズ live は研究指導委員会の教員と事務局のみのグループと、租税法研究指導を履修する全ての学生が所属するグループの 2 本立てで運用している。

研究指導委員会のグループには、マイルストーンの段階・クラス別に分類された学生一人一人の掲示板を設置。毎週の論文ファイルの提出先は事務局のメールに一本化し、ファイルを提出する際には①前回の研究指導での指摘事項②前回の指摘事項への対応の 2 点を、ファイルを添付したメールの本文に簡潔に記すことを求めている。この 2 点を明記させることは、指導教員が毎週の変更箇所を効率よく把握できるだけでなく、現状の課題が何で、それにどう対応する必要があるかを学生自身が明確に意識することにも繋がっていると考えられる。メールを受信した事務局は研究指導委員会グループ内の当該学生の掲示板にメール本文を転記すると同時にファイルをアップロードする。

ファイルがサイボウズ live の掲示板にアップロードされると、3 人一組でチームを構成する租税法指導教員、論理構成指導教員、文章表現指導教員がそれぞれ内容を確認し、メールでファイルを返信する形で、あるいは、研究指導の時間に対面で指導を行う。このとき、メールで学生にフィードバックした内容を掲示板に転記したり、対面での指導の際の要点や、今後に向けて具体的に指示した内容

等を掲示板にメモ的に記載したりしている。結果として、学生一人一人の掲示板に学生本人の取り組みと指導の記録が重厚に蓄積されていくことに繋がっている。租税法指導教員、論理構成指導教員、文章表現指導教員は必ずしも常に同じ空間で同時に指導を行っているわけではないが、それぞれの指導内容を掲示板で相互に共有できるため、それぞれ役割の異なる3名の教員の間で齟齬が生じることを回避し、有機的に機能する状態を作れているのではないだろうか。

租税法研究指導履修者向けのグループは、上述の通り、マイルストーンの段階を問わず全ての履修者が同一のグループに参加している。このグループでは、掲示板と共有フォルダのそれぞれについて、導入クラス、序論クラス、プレ結論・本論クラス、完成クラスのクラス別に分類されたものと全クラスを対象にしたものが設置され、マイルストーンの各段階に応じた諸々の連絡や資料の配信が行われている。



図-3 序論合格をアナウンスする掲示板

あえて段階別にグループを分けていないのは、自身が身を置く段階よりもさらに上のクラスの動向に早い段階から触れることにより、2年間をかけて論文を完成させるまでの過程を常に意識すること等を意図したものである。また、序論合格のアナウンス等は上位のクラスで執筆を進める学生にとっても大きな刺激となっていることを耳にする。また、

SNSと同様に「いいね！」を押せる機能も、モチベーションの維持に一役買っている。

引用の妥当性を担保するしくみ

本年度、論文の形式的な妥当性が一般的にも広く問われることとなる出来事がニュースとなった。本会計大学院では、引用を行う際

の引用箇所の示し方、出典の示し方等を修士論文作成・提出要項に明記すると共に、日々の研究指導でも繰り返し、丁寧に指導を行っている。あわせて、組織的に引用の妥当性を担保する仕組みとして、引用元の文献を PDF 化し、指導教員と共有する取り組みを開始した。学生は、自らの論文に引用した文献を PDF 形式で保管すると同時に、指定された命名規則に従ってファイルに名前を付け、メールで事務局へ送信する。事務局へ送信された参考文献の PDF ファイルは、クラウドストレージの Google Drive (https://www.google.com/intl/ja_jp/drive/)内に設けられた学生個人別のフォルダに格納され、指導教員と共有される^{注4)}。引用元の文献を指導教員と共有することにより、学生、指導教員共に引用箇所について原典に遡れる状態を確保し、学生自身と教員とのダブルチェック、トリプルチェック体制により孫引きや剽窃などを抑止することに繋がっている。同時に、引用を厳格に行うことに対する学生自身の意識の向上にも貢献している。

(注記)

注 1) 山本宣明 “税法修士論文の在り方—修士論文作成のマイルストーン管理 (その2) に代えて—” 『LEC 会計大学院紀要』第 10 号 LEC 東京リーガルマインド大学大学院(2012) pp.197-219.

注 2) 本会計大学院では Google Apps により @g.lec.ac.jp のメールアドレスを学生と教員に付与しており、一連の Google Apps

おわりに

2010 年度に 60 名を超える租税法修士論文執筆希望者を迎え入れて以来、指導体制・指導方法のブラッシュアップと並行して、ICT を積極的に活用する事によるコミュニケーションや情報共有の円滑化を模索し続けてきた。サイボウズ live 上の教員向け、学生向けの 2 つのグループを軸にした現在の方法は、租税法指導教員、論理構成指導教員、文章表現指導教員が三位一体となり、複数のグループを構成して、働きながら論文執筆に取り組む学生の指導にあたる現行の指導体制にマッチし、本会計大学院の修士論文指導における ICT の活用の形としてひとつの完成型に近いものになりつつあると感じている。今後、願わくば、論文の完成を目指す学生が一人ももれなく、目標に到達することができるよう、働きながら学ぶ学生がより学びやすい環境を構築すること、そして、質の高い論文指導体制を側面から支えるための仕組みの更なる充実を目指し、引き続き、努力を重ねる所存である。

のサービスを利用できる。

注 3) [活用事例] LEC 会計大学院 研究指導委員会 様 | チャットもグループウェアも無料で使えるサイボウズ Live
<https://live.cybozu.co.jp/casestudy.html?q=2944>

注 4) フォルダへのアクセスは教員に限定され、学生本人はアクセスできない。